

# 子どもと紙芝居とのあい

唐 沢 佐代子

## 一 はじめに

幼児とは、聞きたがり、知りたがり、おしゃべりのしたがりの年令です。この時期に耳から話し言葉を注いでやる事は、手や目を通じ文字を覚えさせる前まず大切なことだと言われています。話し言葉を耳に響かせ、物事を目に映し、体を感じさせながら情操を豊かにしていく幼児にとって、その幼児の大好きなお話と絵とが一体になり、しかもお芝居のある紙芝居というのは、まさに幼児にとってぴったりのものといえます。

保育の実際場で、子ども達に5分と話しを集中して聞かせることは難しいことです。そんな時、子どもの興味を2倍・3倍とつなぎとめることの出来る強力な助手として紙芝居を大いに活用していくことは、保育の中で大切なことになってきます。ところで、紙芝居と同じように、絵とお話とが一緒になったものに絵本がありますが、子どもに与えていく上で、最初にこの二者の特性を知っておきたいと思います。

### ○紙芝居とは

- 保育者が、子どもに向って距離をおいて演じるもので、ストーリーの持つ目的を集中的に理解させるように出来ている。
- 言葉が読むものでなく、演じるように書かれ、絵は遠目のきくように大胆に省略、誇張されている。
- 紙芝居の絵を抜くというのは、展開発展の劇的効果をあげる手法である。
- 演じる者と見る者との間には、自然に心と心の触れ合いが生じ、このような心的交流をもたらす点において、かなりの力を持っている。

## ○絵本とは

- 絵を主体としている。
- 本を自分の手に取って見、自分で納得してページをめくる。言うならば、一冊対一人の世界のものである。
- 絵が話しかけるものであるため、言葉は短かく要約されている。子どもは、短かい言葉から画面の中に様々な発見をし、喜びを持つ。

以上のように、紙芝居と絵本とは異なった特性を持っているものです。今回の研究集会に際し、保育の現場でもっと見直されていいのではないかと考えられる紙芝居を取り上げていきたいと思います。

紙芝居というと、まず子どもが非常に喜ぶものだという見方があります。そしてそれを共に、お昼寝前や降園時、子どもを静かにさせる目的か、時間が余った埋め合せとして使うものという見方があります。実際、自分の経験から思い起こしてみても紙芝居の持つそういった手軽さの魅力のみに頼り、何げなく選り、与えっぱなしにし改めて考えてみることもありませんでした。そこで、子ども達が、無作為に演じた紙芝居に対しどのような反応を示したかを記録することによって自分なりに紙芝居を見直す機会にしたいと思います。

短期間であり、少数の紙芝居から結論を急ぐのは横暴かと思いますが、以下、先生方のご助言やご協力をいただいた事を参考にしながら分析・考察をすすめてみたいと思います。

## 二 与えた紙芝居と子どもの反応

### 子どもと紙芝居とのであい

月 日	紙 芝 居 名	年令別人数	反 応
3. 12 一日入園	おんなじおんなじ もう いいかい いないいいないばあー	2才 1 3才 11 4才 5	親から離れて泣いていた子ども達も泣き止み、全員興味をもってみる。4才児と3才児2名は一緒になって「まーだだよ」「いないいいないばあー」と口に出し楽しむ。
4. 2	おおきなだいこん	年 中 24	「うんどこしょ、どっこいしょ」「いぬさーん」「ねこさーん」 かけ声や呼び声を一緒になって言う、自分

月 日	紙 芝 居 名	年令別人数	反 応
			もその中に入り楽しんでいる様子がみられる。涙を溜めていた新入児もニコニコして喜んで見ている。
4. 3	いたずらかにくん	年中 21	喜んで見るが、一緒になって楽しむ、感動するといった場面がない。
4. 5	とうせんぼだあれ	年中 20	「アーうさぎだ」「あれわにだよ」知っている動物が出てくると喜ぶ。
4. 6	おへんじ	年中 21	見終ってから「ぼく ハイッていうよ」「わたしだっ」と子どもの中から声が出てくる。
4. 7	へんなへんじ	年中 22	「ハイッていわなきゃあ いけないんだよ」「へんだね」などと言いながら真剣に見る新入児も名前を呼ばれると大きな声で返事ができるようになってくる。
4. 8	けがをしたくじらのクー	年中 24	見たままで終る。
4. 9 給食開始	おべんとう	年中 23	「手でもたないのは、いぬさんだよね」「アーこぼした、ぶたさんみたい」紙芝居を見た後での給食時、言い合う姿がみられる。・おさらは手にもって・こぼさないように・食べ終わったら口のまわりをふく、など子どもの中から気付いてくる。
4. 10	ちらかしくん	年中 23	内容が自分達の生活の中にあるものと離れているせいか、ただ見るだけで終る。持物の整理へとむすびつけるには無理がある。
4. 14	せなかまるたろうくん	年中 24	背を伸ばす…という事への理解にはいかない、静かには見る。
4. 15	けんちゃん なかよしになろう	年中 24	4才児には内容が難しい 新入児2名 ほとんど興味なし

月 日	紙 芝 居 名	年令別人数	反 応
4. 19 午睡開始	ばけくらべ	年長 24 年中 20	午睡前年長と年中が集まり一緒に見る。 年中も喜ぶが、年長の方がばかり合う場面 で声を立て笑うなど喜びがはっきり出る。
4. 20	いもころがし	年長 24 年中 23	年長・中共に終りまでよく集中してみている。 年長になると、話しのおもしろみがわ かって楽しんでいる様子がみられる。
4. 21	絵本 わたしとあそんで	年長 24 年中 24	年長は集中してみているが、年中の4～5 人は途中で興味を失ってしまう。絵本の楽 しみを全体に伝えられない。
4. 22	ねずみちょうじゃ	年中 21	まんがとしてテレビで見たことがあったり よく知っている話しでもあり、真剣になっ て見る。
4. 23	のねずみと まちのねずみ	年中 21	喜んでは見ているが、特に同感したり…と いった楽しみ方がない。
4. 26	ながぐつを はいたねこ	年中 20	内容がよく理解できていない様子がみられ る。「結婚しました」の最後の言葉で歓声 があがるが……
4. 30	おにとおひめさま	年中 20	鬼につかまる場面になると、息をつまらせ 見入っている。
5. 1	ねずみのこいのぼ り	年中 16	興味をもつことなく終る。
5. 4	おにとおひめさま	年中 16	クラスに置いてあった紙芝居の中から選ん できて「これよんで、こわいの大好き」先 におこる事を知っていて、又そのとおりに すじの進んでいくのが嬉しいらしい。
5. 6	てんぐとかっぱと かみなりどん	年中 21	話しのすじがつかめない様子、これといっ た反応なし。
5. 10	はちかつぎ	年中 22	使ってある言葉が難しい、子どもにわかる 言葉におきかえながら、もりあがり部分に

月 日	紙 芝 居 名	年令別人数	反 応
			気をつけ読み、一応興味の持続は出来たが 1・2名は他に興味をそらしている。
5. 12	ききみみずきん	年中 21	話しを理解出来ない、集中してみる態度が みられない
5. 13	とんだちょうじゃ	年中 23	話しのすじが明確でない。 新入児2名他に関心を向けてしまい、最後 まで見ていない。
5. 20	ももちゃんが あかちゃんだった とき  おおきな おおきなき	年中 20	「わー、かわいい」真剣になってみている。 本でのお話を聞いているので「ガムさん まだまだですよ」などと一緒に言って楽し んでいる。 自由遊びの中で もういいかい 先生役 1 いないいないばあー 生徒役 4 おたまじゃくしの101ちゃん (途中から+2) 一緒になって繰り返しの言葉を楽しむ
5. 21	はのいたい ももちゃん	年中 20	「私も、歯いたくなかったことあるよー」「ぼ くもなかなかかったよ」「私ないちゃった」「小 さなコビトが歯をたべちゃうんだものね」 「歯をみがこうっと」子どもから様々な言 葉が出てくる。 歯医者へ行くのがいやだと泣いて母親を手 こずらせていたA「小さいコビトたいじし てもらおうね」の言葉に泣き止み行く、翌 日「なかないでやってもらったよ」 自由遊びの中で おおきなおおきなき (ももちゃんがあかちゃんだったとき)を使っ て『ほいくえんごっこ』をしている。
5. 24	ももちゃんが あかちゃんだっ たとき	年長 20 年中 19	年長、男の子の間からも「かわいい」の声 があがる。年長の男児2名おっぱいを飲む 場面になるとはずかしいと言って目をかく しながらも指のすき間から見ている。 喜々としてみる。

月 日	紙 芝 居 名	年令別人数	反 応
5. 27	にじになったきつね  ももちゃんと かためのプー	年長 24 年中 20  年中 20	4才児の方が喜ぶ  相当な興味をもって、喜んで見る。
5. 28	仙人がくれた夢	年長 23 年中 18	24場面と相当長い、年長は終りまで息をつめ真剣に見ている、話しのすじもわかり、おもしろさがわかって見ている様子、年中の3名途中から飽きてしまった様子見られる。
5. 29	チョコレートカステラだいじけん  ガリバー こびとのくに	年長 23  年中 19	絵のおもしろさと言葉のおもしろさ、事件の流れが楽しいのか、年長・中ともに好きな紙芝居、 「あー、その本うちにある」と年長は興味をもって見る。年中・新入児2名飽きてしまう。
6. 2	いたずらおばけ	年中 19	おばけなんかないさの歌を大好きでうたっていることもあってか 「おばけの紙芝居みたいよー」 しかけもあり大喜びでみる。 「でも、ほんとうはでてこないんだよ」 「でてきても大丈夫、冷蔵庫に入れちゃうから」
6. 4	雨の トーテムポール	年中 22	昨年度末、交通事故に会い、骨折した子がクラスの中にいることもあってか、くい入るように見る。5月下旬に親子の交通指導が行なわれていたことも興味を増す一因であったかもしれないし、情緒的な絵をそれに合った文も、子どもを集中させていたように思う。

◎表による考察

A 子どもが集中し、喜んで見ていたもの。

- 先を予測しながら、自分の思っていた通りに出てくる喜びのあるもの。

『いないいないばあー』『もういいかい』

- 同じ言葉の繰り返しを、みんなで声を合わせ言って楽しめるもの。(そうすることにより語りが増え、表現力が身についていく)『おおきなだいこん』『おおきなき』『ねずみちょうじゃ』

- 主人公がはっきりしている。あるいは場面展開がはっきりしているもの。

『ばけくらべ』『おにとおひめさま』『仙人がくれた夢』…(年長の場合)

- 美しい絵と、美しい言葉の両方がぴったりと調和しているもの。

『モモちゃんシリーズ』『雨のトーテムポール』

- 主人公が自分に身近な存在で、自分が主人公になりきってみられるもの。

『モモちゃんシリーズ』『おおきなおおきなき』

- 身近な生活を扱ったもの。

『へんなへんじ』『おべんとう』

#### B 子どもの興味の薄かったもの

- 主人公が曖昧であったり、すじがはっきりしないもの。

『ねずみのこいのぼり』

- 自分達の生活と離れたもの

『ちらかしくん』『けんちゃんなかよしになろう』

- 子どもの想像の範囲をこえ、理解出来ない事柄を扱ったもの。

『ききみみずきん』『とんだちょうじゃ』

- その年令に対し、話しの内容が難しすぎたもの。

『ガリバーこびとの国』『ながぐつをはいたねこ』『はちがつぎ』『仙人のくれた夢』

### 三 考えられる問題点

以上の点を考えると、紙芝居を選ぶという事は、大変大切な事柄であることに気がきます。子どもの年令、興味と紙芝居の内容とがぴったりと合っている時、子ども達の目は紙芝居の場面に吸いつけられています。

名作と言われている作品を紙芝居にしたものの中には、限られた枚数に収めようと

する為、非常にダイジェストされてしまい、原作の良さを失うと共に、理解しにくくなっているものと見られるように思われます。また、民話的な物、長い間語り継がれ残されてきたお話は、その語りの中で子どもの内に育つ想像力をいつも大切にして伝えられてきたと思われるものがかなりあるように感じました。

#### 四 保育の中での活用場面

では、保育の中の紙芝居には、どんな利用の場面があるのでしょうか。

- ① 子ども達に何かしつけない、約束事をわからせたいと思う時——言葉だけで理解出来にくい事も、より具体的に示されることで子どもは納得します。又紙芝居は繰り返し与えていくことが容易ですので、生活習慣の自立等、自然に身につけていく上で役に立つことでしょう。
- ② 子ども達を保育者の方に無理なく向けさせる。伝えようとする事柄を自然の形で伝えていく。
- ③ 導入、確認、つなぎ、発展等色々な場面での利用。
- ④ 紙芝居の中の言葉を一緒に口に出していく事によって言葉が出てくるようになる。

などが考えられます。

##### ○ 活用例——紙芝居を保育の発展として使った例

『おおきなおおきなき』

5/20 初めて見る。同じ言葉の繰り返しを喜ぶ。途中からは「いれて」「ア～アすずしくっていいきもち」と一緒に言う。

5/21 自由遊びの時間、子ども同士で保育園ごっこに使っている。先生役の一人が演じ、見ている子ども達が繰り返しの言葉を口を揃えて言う、実に楽しそう。

「いれて」「いいよ」と紙芝居にはない言葉が出てくる。

ほとんど毎日、飽きることなく順番に演じたり、見ている。

5/31 簡単な劇あそびにして楽しむ。犬、猿、うさぎ、小鳥など紙芝居にない動物も出てきて、役になりきり、鳴いたり、はねながら「いれて」と来る。

午後の自由あそびの時間、園庭にある大きな木が紙芝居の中の木に思えたのだ



ろう。「いれて」「いいよ」とあそびが始まる。そのうち、お日様が「いれて」と来ると、みんなが逃げ出し鬼ごっこになっている。

6/2 「先生大きな木を作って」というので色画用紙を切りワゴンに立てる。子ども達は、好きな動物や、ルルちゃん、お日様のペープサートを作り、木の下であそぶ。

6/3. 4 自由あそびになると、ペープサートを出してきては劇ごっこが続く。「お日様は入れなくてかわいそうね」そんな言葉が出てくる。

6/5 色画用紙を使用し、貼り絵あそびをする。おひ様には目があり口がある。「わたしも入れて」などと口にしながら、ルルちゃん、動物達は後からクレヨンで描き入れる。

## 五 実演に関する事柄

次に演じる立場を考えてみましょう。私自身、以下のことを確実にしてから演じる、ということがほとんどなくなっており、反省するばかりですが、やはり演じる側として大切なことだと思います。

### A 実際に演じるにあたって

#### a 演じる前

- ① 作品を手し、番号を確かめておく。途中順番が狂っていたら、盛り上りもなくなってしまう。
- ② 声を出して読んでみる。声を出すことにより、調子、抑揚、間などがわかります。繰り返し読み、言葉と絵の関係をつかみ、抜き方の指定の意味をつかみ、作品全体のテーマを把握します。こうしていくうち、どこを早く、どこをゆっくり、あるいはどこが山なのかなどがわかってきます。

#### b 演じる時

- ① 熱演しすぎると、見る者の目が演じる者へいってしまう事になりかねません。
- ② ジェスチャーはいらない。話し手の存在は第2義的なものなので、全体を現わし過ぎないようにします。
- ③ ものまね的なことはする必要はない。素直な自分の声で、しかも、芝居であ

るのでその登場人物になりきらなければいけないことから老人だったらゆっくり子どもならやや早口で、といった工夫が大事になります。

④ 間をうまく使い、抜き方に注意する。先をぬいてしまったり、ガタガタするのはよくありません。ゆっくり、早く、さっと、ぬきながらなど、その場その場によりぬき方を使いわけ、見る者への想像力をかきたてていきます。

⑤ 体を少し横に出し、子どもの表情を半分見ながら演じる。

#### c 演じ終って

① 感動や味わいをこわしてしまうことのないような心遣いをする。終ると同時に次の活動をすぐに指示したのでは、子ども達の心に何も残るものがなくなってしまうでしょう。

② 紙芝居から受けた感動を、子ども達の中に軽く呼び起こしてやる。紙芝居の内容に関する言葉がけをすることによって、一人一人の心の中に様々な思いを起こしていきます。

③ 保育者の感動を子ども達に与えることは大切だが、主観を押しつけることは良くない。

#### B 紙芝居舞台利用について

次をぬいてしまったり、先の方があがったりすることのないよう舞台が必要になるわけですが、実際にはない所もあったりで、私もまた使って演じたことはありませんが、須永先生のご経験からの洋服箱利用舞台などきくと子ども達は大喜びだろうと思います。

##### ○ 舞台を利用するには

- 最前列より 1 m 以上離れたところにおく。
- 見る者の目より、やや高めにする。
- 机の上に安定する。
- 絵に影が出来ないように、暗くならないように気をつける。
- 舞台の後に、光るもののないようにする。

なお、紙芝居は、せいぜい 40 名から 50 名までで見るものであることも知っておいたらと思います。

## C 選ぶ時の目安

子どもを保育室に待たせておき、急ぎ選ばなければいけなくなった時には、何を目安にしたらいいかを考えてみましょう。

- 枚数によって選ぶ。
- 表紙から受けとれる雰囲気を選ぶ。
- あらすじの書かれたものは、それによって選ぶ。
- 与えようとする年令に合わせ、年令の指定されたものを選ぶ。
- その時のカリキュラムと関わりのあるもの、季節、行事の合っているものを選ぶ。
- 子どもの中に起きそうな事件（けんか、叱られた、歯医者に行った）を扱ったものを選ぶ。

## 六 終りに

終芝居というと、絵本をつかい、とかく子どもの手の届かないところにしまってある場合が多いようですが、もっと子どもが充分に使い込んでもよいものになっていいのではないのでしょうか。集団で行える保育活動であり、展開のさせ方は総合的なものになっているこの紙芝居を、保育の中でどう捉えていったらよいかを含め、もう一度見直しをしてよい時がきているように思います。児童文化財として位置づいていく為にも、より芸術的価値の高いものが出てきてくれることを願っています。そしてそれと同時に、私達保育者も、研究し合い、協力し合って、その時の子どもの状態に即した紙芝居を自らの手で作っていかうとする、熱意をもつ必要があるのでしょうか。時には、子どもとの合作を楽しみながら紙芝居が出来上っていくとしたら何と楽しいことでしょう。

（上田市 南部保育園）